

### 座談会

## 年金によるPE投資の実際と今後への展望

と き 2014年12月3日（水）  
 ところ 日本証券アナリスト協会会議室

《出席者》（敬称略、五十音順）

大藤 康博

（大和ファンド・コンサルティング 取締役）

高橋 修三

（企業年金連合会（PFA）年金運用部 PE 担当  
 シニア・ポートフォリオマネジャー）

《司会》

木口 愛友 CMA・CIIA

（岡山県機械金属工業厚生年金基金  
 運用執行理事）

徳島 勝幸 CMA

（ニッセイ基礎研究所 金融研究部 首席研究員  
 兼 年金総合リサーチセンター 研究部長）

### 目次

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題提起</li> <li>2. PE投資への取組みの現状</li> <li>3. PE投資に取り組む意味合い</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>4. PE投資の取扱い等技術的な課題</li> <li>5. 外部マネージャーの活用と自家運用の優劣</li> <li>6. PE投資における懸念と今後の展望</li> </ol> |
|--|---|

### 1. 課題提起

**徳島** アベノミクスによる円安・株高によって、日本経済はこの2年間、息を吹き返したように思う。一方で、成長戦略のための第三の矢において、成長資金の供給が喫緊の課題であることは明白だ。14年6月24日に公表された「経済財政運営と改革の基本方針2014」においても、「民間資金の活用、中長期の安定した投資の促進により成長資金の供給を強化する。公的・準公的資金の運用

等の高度化を図る。」と明示された。同時に2014年版として改訂された「日本再興戦略—未来への挑戦—」が公表され、13年の有識者会議報告等で述べられた公的・準公的資金の運用等の見直しの方向性を維持し、「長期的な健全性の確保に留意しつつ、必要な施策を迅速かつ着実に実施すべく所要の対応を行う」としている。この中では、成長資金の供給源として、GPIFに代表される公的資金によるインフラ投資やPE投資への拡大が見込まれている。一方、企業年金に目を転じてみ